

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0194700464), 法人名 (社会福祉法人 三章会), 事業所名 (グループホーム めばえ・ゆうぎ(ゆうぎ)), 所在地 (北海道 河西郡芽室町東3条1丁目1-2), 自己評価作成日 (平成28年1月15日), 評価結果市町村受理日 (平成28年3月16日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームでの生活が安心し、楽しく生活出来るよう、その人に合った役割、家事など一緒に行い助け合いながら生活出来るよう支援しています。また、季節毎に創作物の作成、ホーム内行事・外出を支援し楽しみのある生活を提供。毎月生活の様子を新聞にし、ご家族に生活の様子を知っていただき、年に2回家族会を開き親睦を深め、家族と共に支援できるように努めています。同法人のグループホーム4事業所(7ユニット)で、月に1度意見交換を行いより良い支援を目指しています。また、今年度より3か月に1度勉強会を行い、職員のスキルの向上にも努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0194700464-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成28年2月24日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域での生活を大切にし、共に助け合いながら楽しく生活出来るよう理念を作っています。また、理念を掲示し実践出来るようにしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	暖かい日には、外に出て散歩、外気浴をし近隣の方たちと交流出来る様努めている。また、慰問があるときには参加させて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、町内会の方に出席して頂いており、避難訓練、行事など協力を仰ぎグループホームを知って頂けるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催しており、生活の様子や行事、職員研修、事故の報告を行っています。出た意見は、サービス向上につなげています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で事業の報告をしており、必要時には、直接相談しています。また、月に1度芽室町主催で行っている、ケアカフェに参加させて頂き協力関係を築けるよう努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成しており、研修にも参加。職員は身体拘束について理解しており、日常的にも言動に注意し抑制のない生活を支援しています。夜間は防犯のため、施錠していますが、日中は施錠することなく自由に外出できる環境づくりに努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルを作成し、職員には周知しており、日常のなかでも入居者の仕草、言動に注意を払い、見過ごすことのないよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、該当者なく必要としていないが、権利擁護等のマニュアルは作成しており、必要時には活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の説明時、契約時に不安や疑問のないように説明し、入居して頂いています。また、解約、改定時等その都度説明し理解頂くよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者には、日々の生活のなかで、要望を聞くように努め、ご家族からは面会時に要望を聞くようにしています。また、ご家族に満足度アンケートを実施し運営に反映しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を聞くような環境づくりに努めており、月に1度会議を行い、職員の意見や提案を検討する場を設け運営に反映出来るよう取り組んでいます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、資格取得の試みも把握しており、資格取得は補助金制度もあり向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外研修に積極的に参加出来るよう努めています。また、社福独自で勉強会、交換研修を行いスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外での研修に参加する機会を設け同業者との交流をする機会を得るようにしています。また、芽室町主催のケアカフェに参加し情報交換等をしサービスの向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています	本人の生活の場でアセスメントをするようにし、緊張せず話しやすい環境づくりに努め、安心した生活が送れるよう不安、要望を聞き安心した生活が送れるよう支援。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の生活歴、現在に至るまでの経緯。要望、心配事など事前にお聞きし、より良い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に、本人・家族が必要としている支援を見極め、関係機関からの情報を含め検討し、対応出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、作業を共にすることで、互いに助け合い、共に支え合いながら生活出来るよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に訪問出来る環境作りを心がけ、訪問時には生活の様子をお伝えし、相談しながら、共に支えて行く関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が気軽に訪問出来るよう努めている。また、遠方からのお届け物等がある際は、電話を入れるなどの支援をしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、孤立しないように配慮し、家事、創作活動等を共に行うことで、支え合い生活して頂けるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、施設、病院等へ訪問し、直ぐに関係を断ち切らないようにし、必要時には、いつでも相談して頂けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり、その人らしい生活が送れるよう、希望や意向を把握するように努め、困難な場合は、ご家族と相談しながら暮らしを支えて行けるようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントをし、入居後も本人、家族にお伺いしながらこれまでと変わらない生活を送れるよう努めている。また、入居前のサービス事業所より情報提供し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	以前の暮らしと変わらないように努め、一人ひとり出来る事に目を向け、張りのある生活を送れるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月会議で、一人ひとりの介護の在り方を話し合っており、本人、家族と相談しながら、現状にあった介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとり生活記録を作成しており、日々の様子は、連絡ノートを用い情報を共有し実践。介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望の把握に努め柔軟なサービスが提供出来るよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店を利用し、町内の方たちに協力を得、外食、買い物を楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームに担当医がおり、隔週で往診して下さる。入居時に本人・家族了承を得かかりつけの医を変更して頂いています。前医師には、情報提供を頂き継続的な医療が提供出来る様支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師がおり、日々の健康管理を支援。また、緊急時には担当医へ連絡し、訪問してくださり相談できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供をしており、入院中には、家族、病院関係者と相談し早期退院に向け関係づくりに取り組んでいます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期について意向を伺っており医療的処置が必要にならない限り、家族・医師と相談しながら出来る限りの支援を行っている。また、ターミナルのマニュアルを準備している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急、事故に備え対応については事務所に掲示しており、研修等に参加し実践力を身に付けるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を町内会の方たちを交え消防署指導の下に、日、夜勤想定のもと行っている。また、災害マニュアルを備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを傷つけないように配慮し、一人ひとりに合わせた言葉かけを行うよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でいつでも、思いや希望をくみ取れるよう雰囲気作りに努めており、本人の意向を尊重するよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することなく、一人ひとりの生活のペースを大切にし、希望に沿った生活が送れるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみは勿論のこと、お出かけ時には、おしゃれを楽しんで頂けるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や盛り付け等、出来る事は一緒に行っています。また、季節や行事に沿ったメニューと一緒に考え、食事を楽しんで頂くよう努めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食事の形態に合わせた食事を提供し、水分については、水分チェック表を用い水分の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、磨き残しや義歯清掃の補助などを行い清潔の保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、一人ひとりの排泄パターンを把握し、失敗せずにトイレでの排泄が出来るよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく下剤を使用しないよう、日頃から水分、乳製品を摂取して頂き、毎日運動するよう働きかけ便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほぼ毎日入浴を提供しており、週に2、3回入浴できるように努め、希望に合わせて入浴を楽しんで頂けるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めておらず、一人ひとりの生活習慣に合わせて入眠して頂いています。また、日中も食後など休息の時間を設けるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬の理解に努め、体調の変化があれば、担当医に報告。新しい内服処方時には副作用等、職員全員周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、一人ひとりに合った役割を提供しており、月に一度のホーム内行事を行うなど張りや楽しみが持てる生活を支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい季節には、お散歩に出掛けたり、玄関先でお茶を飲んだり戸外へ出るよう努めており、5月～10月にかけては、ホーム行事とし、外食に出掛けています。また、ご家族との外出も楽しんで頂けるよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談のもと、ホームで管理させて頂いています。日用品等で必要なものは、本人と相談し購入していますが、ホームでの外食時には、買い物ができるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、電話等の取り次ぎをしています。また、遠方からのお手紙、お届け物があつた際には、お礼の電話をするよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場が不快にならないように配慮し、季節を感じて頂けるよう、毎月一緒に展示物を作成し、楽しみや達成感を味わいながら環境づくりに努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、気の合う利用者同士と一緒に過ごせるように配慮し、思い思い過ごせるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた物をお持ちいただくようにしており、居心地が良く生活できるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ること、わかることを見極め、失敗のない工夫をし自信を持って生活出来る環境づくりに努めています。		